

平成30年度第4回大和市街づくり推進会議 会議要旨

- 1 日時 平成31年1月30日(水) 14時30分～16時30分
- 2 場所 大和市役所 会議室棟 101・102 会議室
- 3 出席者 9名
- 4 傍聴人数 0名
- 5 議題
  - (1)「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について
  - (2)平成31年度の街づくり啓発事業について
- 6 会議資料
  - ①次第
  - ②社会資本総合整備計画(大和市大和駅周辺まちづくり)事後評価について
  - ③資料1 社会資本総合整備計画「大和市大和駅周辺まちづくり事後評価書(原案)」に関する市民意見公募手続の結果
  - ④資料2 社会資本総合整備計画(市街地整備) 大和市大和駅周辺まちづくり事後評価書(原案)
  - ⑤平成31年度の街づくり啓発事業について
  - ⑥◆市制60周年記念街づくり賞の進行イメージ案
  - ⑦□大和市 街づくり賞 一覧【事例部門】
  - ⑧街づくり賞受賞事例マップ(事例部門)
  - ⑨■大和市 街づくり賞 一覧【活動部門】
  - ⑩事後評価 これまでにいただいたご意見とその見解
  - ⑪□大和市 街づくり賞(除外分)一覧【事例部門】
  - ⑫■大和市 街づくり賞(除外分)一覧【活動部門】

## ■平成30年度 第4回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成30年度 第4回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成31年1月30日(水)14時30分～16時30分

[開催場所] 大和市役所 会議室棟 101・102 会議室

[出席委員] 9名(欠席：3名)

[出席] 黒石 いずみ／杉崎 和久／菅 孝能／江村 郁子／仲村 邦弘／星野 澄佳／山田 俊明／須賀 良二／宇津木 朋子

[欠席] 饗庭 伸／河村 奨／松本 久美

[事務局] 13名(街づくり計画部長、街づくり総務課長、街づくり推進課長、街づくり調査担当3名、街づくり推進担当3名、大和駅周辺市街地整備支援担当2名、道路安全対策課 道路整備担当2名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 TEL.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開状況] 公開

---

### I. 会議次第

1. 開会
2. 議題
  - (1) 「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について
  - (2) 平成31年度の街づくり啓発事業について
3. その他
4. 閉会

### II. 内容

---

#### 1. 開会

#### 2. 議題

- (1) 「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について  
質疑応答(○…委員 ▼…市)

▼(配布資料に沿って、報告及び説明。)

○①これまでの意見を、事後評価書のどのシートに反映したか、②事務局の説明に対して、わかりにくい部分についての補足説明、③これまでの推進会議でいただいたご意見について、シートに表現しきれない部分として別紙記載という形で反映するのはどの部分か、という3点に分類して整理してもらえるとわかりやすかった。

ここからは、この場で合意するという内容ではないので、順不同で意見を出していただき、事務局に

よる整理後に次回以降の会議で報告してもらいたい。

○これだけの金額をかける規模の事業は、今後は予定されているのか。

▼社会資本整備総合交付金としては、別件でポラリス等の中央林間駅周辺の事業を行っている。

▼金銭的に今回のような規模の事業という意味では、このような補助金の活用の仕方は、今までもなく、これからも、おそろくないと思われる。

再開発事業が健全かどうかという点については、様々な議論がある。かつては、人口増加の時代に火災や震災の復興のために行なわれてきたが、本事業はそのような住宅系の再開発ではなく、公共施設を取り入れた再開発である。

○常識的に考えて、今の社会情勢においてははないと思われるという意味で、今後事業がないとは断言できないと思うが。

規模にもよると思うが、このような形でこの社会資本総合整備計画を使う事業を行うこと、また、このような形でこの会議で事後評価の議論をすることはあり得るということか。

▼それはあり得ると思う。国の制度自体が社会資本総合整備計画に基づく補助金なので、規模の大小はあるが、続くと思う。ただし、形式的な評価方法やご意見のもらい方など、改める必要はあると思う。

○このように事後評価を行うということが、この街づくり推進会議にふさわしい議題なのかという点では、疑問がある。推進会議は、市民同士が街づくりについて議論をする場であると思う。

▼他市の状況を見ると、5名程度で専門的な立場から意見をいう評価委員会を立ち上げているところもある。

本市の場合、過去、区画整理事業やまちづくり交付金といった補助金の際、推進会議で評価をしていただいたので、その流れから引き続き事後評価を行っていただいた。

これからの課題として、今後も事後評価が続くようであれば、専門的な委員会の立ち上げも視野に入れて検討していきたい。

○突然「評価」と言われてもためらってしまうところがあるので、進め方の配慮が必要かと思う。

○今回の事後評価について、シリウスについては、以前から説明を受けていたため評価内容や効果について、なんとなく実感できているが、その他の基幹事業や「効果促進事業」は、もちろん行政としては実施していたと思うが、評価にあたって初めて出てきたものである。計画の中身等についてあまり示されずに評価を求められた印象がある。こちらについてもきちんと情報提供してもらった必要がある。

また、当該事業は、まだ完了していないものもあると思う。これからも継続する交通関係の事業については今後どうするのか、考えを聞いておきたい。

▼例えば、コミュニティバスの事業の実施自体は、今後も続く事業である。引き続き、より一層、外出しやすい環境整備を進めていく必要がある。ただし、今後は補助金を活用して実施する事業ではなく、そのような意味で、土俵が変わり、社会資本総合整備計画に基づく事業としてではなく、大和市総合交通施策に基づく一事業として、事務事業評価等で評価していくことになる。

○パブリックコメントの閲覧者は22名とのことだが、この年齢層はわかるのか。

▼この数値は、ホームページにはカウンターがないため、コミュニティセンターや学習センター等の施設で閲覧されたものをカウントしたもので、年齢層までは把握できないのが現状である。

○意見をくださった方の年齢層はわかるのか。

▼男性の方からファックスでご意見をいただいたが、年齢は不明である。

○市民から評価を得ようというのはとても貴重なことだと思うが、必然性や切実さ等、市民にとってどれ位この事業のニーズがあるのかがわかりにくかったので意見が少なかったと思う。

今、市が直面している様々な課題の中に落とし込んで整理していれば、市民も自分の問題として捉えてくれたかもしれない。

○事後評価書はフォーマットが決まっているので難しいのかもしれないが、今の提案とつなげるとしたら、例えばどんなやり方があるか、もう少し具体的なアイデアが欲しかったということだと思う。

○例えば、被災地での市民アンケートでは、簡単な漫画を描いて、一言で「皆さんの〇〇の問題です」といったようなわかりやすい表現を大きく組み込む等したチラシを付けていた。このような、小学生でもわかるような内容にしたら、違う結果になったかもしれないと思う。

○今回に限らずパブリックコメント等は全般的にそのような状況だと思う。

▼市民にとって、市のすべてのパブリックコメントに対して意見を述べる時間はないと思う。今年度は、総合計画もパブリックコメントを経て策定される。来年度は都市計画マスタープランもあるので、いただいたご意見やご指摘を踏まえて「見せ方」を考えなければいけない。コミバスについても、健康施策として外出機会を創出し、歩いていただくことが大事で、その結果、医療費等が少しずつ下がっていくような施策を目指しているが、全てを数値化することはなかなか難しい。全てを街づくりに落とし込むのはなかなか時間がかかるが、少しずつ進めていきたい。

○この評価はルールとして国に求められて行っているものであるが、市民にとっては、参加の機会が多すぎて全てに参加していくのは難しい。その中で、都市計画マスタープランや個別事業の優先度を市民が見極めていくのは困難な状況である。

○問題なのは、例えば巨大予算が下りて、その予算が使われる事業が、市民にとっては、自分たちが本当に必要だと感じている事業と違っていたり、根本的に国の予算と市の予算の区別が分かりにくかったりして、不満を持っているのだと思う。

▼地域全体に関わることであればその地域の市民の意見を聴いていくべきかもしれないが、社会資本総合整備計画の基幹事業は、地域全体の計画ではなく、公共施設を整備していくためのものが主であるため、少し目的が異なる。

今後事業を進めていく中央林間駅周辺では、中央林間地区まちづくりビジョンのように、市民の意見を聴きながら作成しているものがある。

○被災地でも同様の問題がある。建物を建てた後のメンテナンスは市の予算で行うものとして、市民の税金を使うことになる。そのようなものに税金を払いたくないという市民もいると思うので、そこまですべて考えて事業を進めるべきである。

○私もその点が気になる。その後の建物の維持管理や運営につなげる課題や評価と、使い続けるための道標が必要なのではないかと思う。

○この評価が全てではない。事後評価は枠が決まっているので、むしろ大事なものは、都市計画マスタープランや地区のまちづくり計画、公共施設マネジメント等であり、これは一部であるということの説明も欲しかったというご意見だと思う。

また、パブリックコメントの件数についても、多ければ良いという訳ではなく、評価が分かれるところだと思う。

○このような補助金をもらう事業では、必ず評価がつきまとう。こういった資料は、内容が硬いものになってしまうため、市民は意見を提出するのをためらってしまうのだと思う。

意見がないから市民が満足していないという訳ではない。例えば、シリウスの利用者に、一般的な市民感覚の反映としてインタビューしたら、良い意見をいただけたと思う。そして、そのような市民感覚の反映としての評価を、どのように評価書に表現していくかが、これからの課題だと思う。

▼今回いただいた内容を整理し、次回の会議で報告させていただく。

## (2) 平成 31 年度街づくり啓発事業について

質疑応答(○…委員 ▼…市)

▼(資料に沿って説明を行った。今後のスケジュール及び絞り込みの視点についての説明を行い、現地調査の結果について、事例に沿っての説明までは行わなかった。)

○事例の説明よりも、そもそもの議論が必要だと思うので、順不同で意見や質問をお願いしたい。表彰するというのは重たい話なので、評価基準を外部にしっかりと筋を通して説明できることが重要である。

○第一印象として、過去の受賞事例から賞を選び出すことは、なかなか難しいと感じた。一方で、大和らしい景観に市民の価値観がはっきり表れていると思う。

また、地域や地区の偏りがはっきり表れているとも感じ、市民もそれに注目していると捉えた。受賞事例を分類してみると、最多は個人住宅だが、これらは建物ではなく、塀や生垣(特に低い生垣)等の意匠が評価されたものである。また、外から見える庭の緑の多様性、微笑ましい演出等も特徴的であり、こういったものが共感を得るのだと実感した。

戸建住宅や集合住宅の開発に関しても建物ではなく、公開空地やアプローチのちょっとした演出、既存の樹木を保存していたり、建物スケールに合わせた高い木を植えていることを評価している。また商業施設で街角広場の提供や、オープンカフェ等に対して推奨している。

学校や幼稚園、デイサービスは、街に向かってどう開いているか、人々を迎え入れる楽し気なサイン等に注目している。

その他は、緑地や水辺空間、歴史的景観、林間都市等が評価されている。

これらには明確に大和市民の価値観が表れていると感じる。

これらを踏まえると、果たして過去の受賞事例の中で優劣をつける必要があるのか、疑問である。表彰はやめてしまって、過去の事例を上手く使って、大和市のこれからの街づくりの方向性を示す街づくりガイドブックを作った方が面白いのではないか。

○ご提案を含めてご意見をいただいたが、ひょっとしたら、部門の選定についてのご意見かもしれないなと思いながら聞いていた。

○緑、調和、歩く快適性、街並みに馴染んでいる、継続性、将来に残していきたいといった視点があったが、それらが資料の一覧の中で除外されてしまっているということが気になっている。

除外事例の中に、評価に値するものがあるのが残念である。経営者が変わって建物を継承していたり、建物が建て替わっていても以前より良くなっていれば評価に値すると思うので、もったいない。

▼その点に関する説明も含めて、配布した資料に沿って除外事例や現状について説明させていただ

こうと思っていた。

会長との打合せ後、除外分の一覧表も作成した。活動部門については、「現状」欄に調査の結果、現時点で活動の有無がわかっていることを補足も兼ねてまとめてある。

○本日の議論では、各事例について一つ一つ説明をすることは避けたい。資料の作り方として、スケジュール表と選考手順は別に記すべきではないか。この事業において推進会議の役割もよくわからない。事務局案としての3つの部門が不明確で、最終的に誰が決めるのか、その辺りがぼんやりしすぎている。絞り込みは、誰が、どういう基準とするのか、その中から推進会議でどの段階で何を絞り込むとか、市民が投票したものをどう参考にするのか等、同一事例が複数の部門で受賞することがあり得るのではないか。

▼それはあり得る。この資料では、あくまで、前回の議論や資料を踏まえて部門案を設定したものである。

最近の受賞事例でも長く継続しているものもあり、難しい。

○単純に前回の議論の内容から部門を設定するのはいかがなものか。その点の精査くらいは事務局でしていただきたい。

わかりやすい選考基準がないと、最後に苦しくなる。

▼絞り込む審査にあたってはやはり視点が必要であり、今回はこれまでのご意見を踏まえて事務局案を提示させていただいた。ここで新たにご意見をいただければ、事務局として検討させていただく。

市民にわかりやすい基準という意味では、例えば資料にあるように景観形成方針に沿って評価していくという方法であれば、市民に対しても説明ができる。これを単純に視点にするという形でも良いかと思う。

○資料の3部門のうち、1部門目はわかりやすいが、それ以外の二つの部門は基準がよくわからなくなってくる。

▼参考までに、10年前の市制50周年の際は、「伝えたい 残したい やまとの景観」という事業を展開し、将来に残したい本市の景観を50件（結果として44件）選定した。

事務局としては、意見をお伺いしながら進めていきたいというのが正直なところである。

○そうであれば、もう少し事務局で詰めて欲しかった。

この資料はあまり前提としなくてよいか。そもそも3部門にする必要はあるのか。

▼市制60周年記念事業としてこれまでの開催を振り返るという意味があるので、これまでの街づくり賞とは違うという意味合いがあれば、部門を3つにする必要はない。

○1年ではなくて、長いスパンのなかで選ぶという視点は共通認識としておく。

○部門の分け方については疑問があるが、景観形成方針を視点にすることは良いと思う。

これを部門にどう関連付けていくかは検討する必要がある。

やる気がある人を表彰することで、これから先の街づくりにつなげていけるような内容にするべきである。ほかの人が模倣できるような事例を紹介していくのが良い。

○他の人が取り組みやすいような、モデルとなる取り組みを表彰するのが良い。

また、今年はこの視点、次回はこの視点というように、変えていく可能性もあるかもしれない。

○表彰を前提にするのであれば、景観形成方針の①～③の3つの視点をもとに受賞事例を分類して

みてはどうか。例えば、マンションや商業施設や企業を外せば、結構絞り込めると思う。

○除外すると言い切ることにはなかなか難しい。全体の数を把握するためにとりあえず絞り込むということであり、単純に「除外」とするのはいかなものか。

▼説明の順序として、全受賞事例が120件であり、事務局案に沿って絞り込んでいった結果、これだけの件数になったという流れで進めるべきであった。

確認しておきたいこととして、現在検討している事業は市制60周年の記念事業であり、ここで、過去の街づくり受賞事例を振り返り、受賞事例を対象としましょうという点は、当初からブレていない点である。あくまでも受賞事例を再評価するもので、今回は新しい事例は含めない前提である。

▼資料の一覧の、除外分との切り分けは、あくまで当時の表彰時点を振り返り、どこが評価された点か、現状はどうかという視点から行っている。例えば、受賞事例が既になくなっていたり、色彩や形状が全く変わってしまっている場合等、現状は受賞当時とは異なり別の素晴らしい事例であっても、事務局としては、講評で評価された時点の状態からあまりにも大きく変化してしまっていれば除外している。ただし「除外」という表現が適切かどうかという問題はある。

○それは事務局の考え方だと思う。

例えば受賞事例の庭が少し変化した場合など、当時と状況が違っていても「進化」と捉える見方もある。

▼そのように、良くなったのに全く除外するのは適切ではないと思う。分母は増やさなければそういう評価もあると思う。

○例えば、建て替えたが前の建物の雰囲気を残している場合等は、全く除外するべきではないと思う。

▼先ほどの事務局の説明は、そのような事例を否定している訳ではない。

○そこを議論していかないと、枠組みが決められないと思う。

▼公共施設を除外することについては、今回の資料では除外されているが、まだ議論する必要がある。公共施設が作られたことによって進化する場合もある。

▼絞り込み後に、関係者へのインタビューをするという観点からも、現状を整理したというところである。

○公共施設は全て除外するということか。

基本的に公共施設は外すが、公共施設であっても市民との関わり合いがあるものは残すという理解でよいか。

▼そうである。前回の会議でもご意見としていただいたが、公共施設であっても市民との関わり合いがあるものは、資料でも除外せずに残している。

○事務局案で除かれていても、必要かどうかという観点から議論すればよいと思う。必要であればそのように意見を述べればよいと思う。

「除外」といわなくても、持続して運営されていて、地域の人も入っているものは対象とするという考え方だと思う。

本日の議論としては、現状を確認し大まかに絞り込んだ結果、80件くらいになったということであり、それ以上でも以下でもない。部門を分けるかどうかも含めて、今後の議論を進めていくた

い。

- 部門は分ける方が良いと思う。公共施設であるかどうかではなく、その建物が建ったことで周囲へ与えた影響を重視して選んでいくべきではないか。あまり活動の継続性にこだわりすぎず、景観という切り口で考え、見た目で評価していくのが良いと思う。
- 景観というと見た目だけが注目されがちだが、それだけではなく、音や風、におい、思い出等も含めて「景観」を形成するのだと思う。見た目だけにこだわらず、活動の内容を細かくチェックするよりは、周りの人にとって良い場所になっているかどうかが相対的な一つの価値であるとしてアプローチしていく必要があるのではないか。
- 現実的に何らかの絞り込みをするときに何らかの基準が欲しいということだと思う。評価にあたって最後の選考の段階で、どういう基準で評価するかももう少し踏み込んだ議論ができれば良いと思う。
- これまでの議論でもご意見として出ていたが、大和市民の好きなものを「個性」として捉えること、また、みんなに働きかけていてこれからも希望があること。それから、みんなに良い影響を与える、閉じていなくてオファーしているもの。パブリックとプライベートの間をつなぐ幾つかの個性あるアプローチがとても重要であると思う。  
景観形成方針の各視点についても、せっかく良いキーワードがあり、もったいないので、同じような内容に見えてしまわないようにする必要がある。
- 評価基準を一つにするか、複数にするかが問題である。
- そもそも60周年で絞って一つの賞にすることが難しいのではないかと感じる。  
1か年で終わらず、何年かにわたって開催することは可能か。
- 60周年記念なので、それはないと思う。
- 今後の街づくりのイメージ作りにつながるスタイルブックを作るというようなことも踏まえた視点も重要である。
- それにしても、何を基準にするかという視点が必要である。
- 他の活動者の励みになるような、一つのイベントとして捉えていくということではないか。
- ▼現段階では、推進会議の委員の方に選んでいただく機会が2回ある。それは、本日もご意見をいただいている候補事例の絞り込みと、最終的な本事業の受賞事例の選考の2回である。本日いただいたご意見を参考に大きな枠の視点で事務局としては本日お示しした過去の受賞事例から、まず第一段階としては20~30くらいに絞り込みたいと考えている。
- 幾つかの切り口があって、基準を決めて、事務局に絞り込んでもらった方が、事務局としてやりやすいのではないか。  
地域の活動として維持、環境につながっている、より豊かになっている、よりユニークなものというような切り口がないと、これ以上絞り込むのは大変なのではないか。
- ▼これまでの議論から、表彰自体を行わず、全体を整理しなおして、街づくり賞のPRも兼ねた受賞事例の紹介を行う60周年の記念冊子を作成するという選択肢も考えられる。
- それは表彰事業をやめて、予算の使い方の方向性を変えることも視野に入れて検討していくということか。
- ▼記念冊子を作っていく中で、受賞事例の再評価をして、より良いものがあれば花丸を付けたり、



賞を与えても良いかもしれない。

○景観形成方針の3つの枠組みごとに整理してというのは、良い意味で無難かもしれない。

▼無理に絞り込まず、委員の皆様を選んでいただき、それぞれを再評価して、現時点での新たな講評を示すという方向性も考えられる。

○事例で一番多い戸建住宅に注目していて、例えば周辺に影響を与えた事例等、隣近所が緑を増やしたり、オープンガーデンができたり、新たな現状を評価するという方法もある。

いずれにしても、もう少し調べなければいけないと思う。

○事務局案の2のように、周辺に良好な影響を与えたというものに絞ってしまっても良いかもしれない。

○良いと思う。街づくりらしい。

○誰かに影響を与えた事例というのを拾い上げるのは良いが、調査が膨大な作業になる。

○参考までに、大磯町では、NPOがオープンガーデンというものを開催している。大和市にもそのような事例があるかもしれない。

○活動の歴史が長いものも大事であるが、それよりもむしろ活動地域を把握し、周辺に影響を与えたものを評価していくことも大切である。

受賞者に対して郵送で、活動がどのように周囲に波及しているか、アンケートで把握する方法もある。

外に対して、きちんとプロセスが説明できるかという点が重要である。

次回の会議での意見を受けてから方向性を確定すれば良いと思う。

○本日の議論で出てきた視点を、大和市の景観形成方針に振り分けてはどうか。

○本日の議論から、事務局が一つに決めることは難しいと思う。

▼表彰を行わないパターンも含めて再検討させていただく。

○切り口が幾つか出たと思う。活動、波及効果、見栄え、インパクト、戸建住宅地や集合住宅地といったような対象によって、等である。

▼本日いただいたご意見は、メリットとデメリットといったように整理しながら、絞っていくうえで対市民への説明という観点を踏まえて整理していきたい。

○本日の議論では、こういうグループ分けができるという切り口についての意見が出たと思うので、それを一度整理していただければと思う。

○これまで長期間続いてきた事業であるので、継続性や波及効果が重要なのではないかと思う。

○大事な議論であると思うので、会長に相談しつつ進めていただきたい。

### 3. その他

#### 事務局より連絡事項

次回の第5回街づくり推進会議の日程調整は既に確認中であるが、都合により改めて再調整させていただく。

### 4. 閉会

以上